要望書

野川緑地広場（成城四丁目二九番）周辺に「ドッグエリア」を新設することを要請します。

成城四丁目二十九番の野川緑地広場には、毎日、多くのワンちゃんが訪れます。休日ともなれば、夕方は人の数より犬の数が多いほど。中には、遠方から車で犬を連れてくる方も見受けられます。この緑地が整備されたことで、野川沿いの遊歩道とあわせ、犬に優しい緑豊かな環境がつくられたといえましょう。そのことはとてもいいことですが、一方で、引き綱を放して（ノーリードで）ワンちゃんを遊ばせる人がいることも事実です。そのため、世田谷区による注意書きの看板が次々と立てられる事態となりました。

しかし、注意看板だけで問題は解決するのでしょうか。わたしたち住民有志は、この緑地が小さな子どもや老人を含めた「人間」と「ペットたち」、双方に優しい空間になることを望んでいます。そのために、ワンちゃんが心おきなくノーリードで遊べるエリアを作り、これまで、犬が苦手な方や小さなお子さんが広々とした芝生を存分に活用できるよう、共生を考えるべき時だと思います。人とペットの共存・すみ分けを考える必要性は、先に実現している東京都立のドッグラン（駒沢公園、神代植物公園脇、大井ふ頭中央海浜公園ほか多数）に見られるように明らかです。

世田谷区におかれましても、地域住民の利便性、安全性を考えて、野川緑地広場を中心とした喜多見・成城地域に、犬を放し飼いにできるエリアを新設されるべきと考えます。そのために、ぜひ犬専用の遊び場を確保し、それを囲う柵の新設をお願いしたく思います。

ぜひ、当該地域に「ドッグエリア」を整備していただけますよう、ここに要請します。

二〇〇八年十二月

代表世話人　大野　裕（慶應義塾大学保健管理センター教授・精神科医師）
絹谷幸二（東京藝術大学教授・画家）
間瀬　豊（内科医師）

世田谷区長　熊本哲之殿

住所	氏名